

# 第1 基本的な考え方

## 1 策定目的及び位置付け

### (1) 策定目的

札幌市の交通事業においては、地下鉄・路面電車の合計で1日平均約65万人のお客さまにご利用いただいています。札幌市民や札幌市を訪れる皆さまの「足」を永く守っていくことが札幌市交通局の最大の使命であり、そのためには、安全で確実な輸送サービスや、人口構造・社会環境の変化等を踏まえた時代に合った利用者サービスなどへの対応を、限られた経営資源\*の中で計画的に行っていく必要があります。

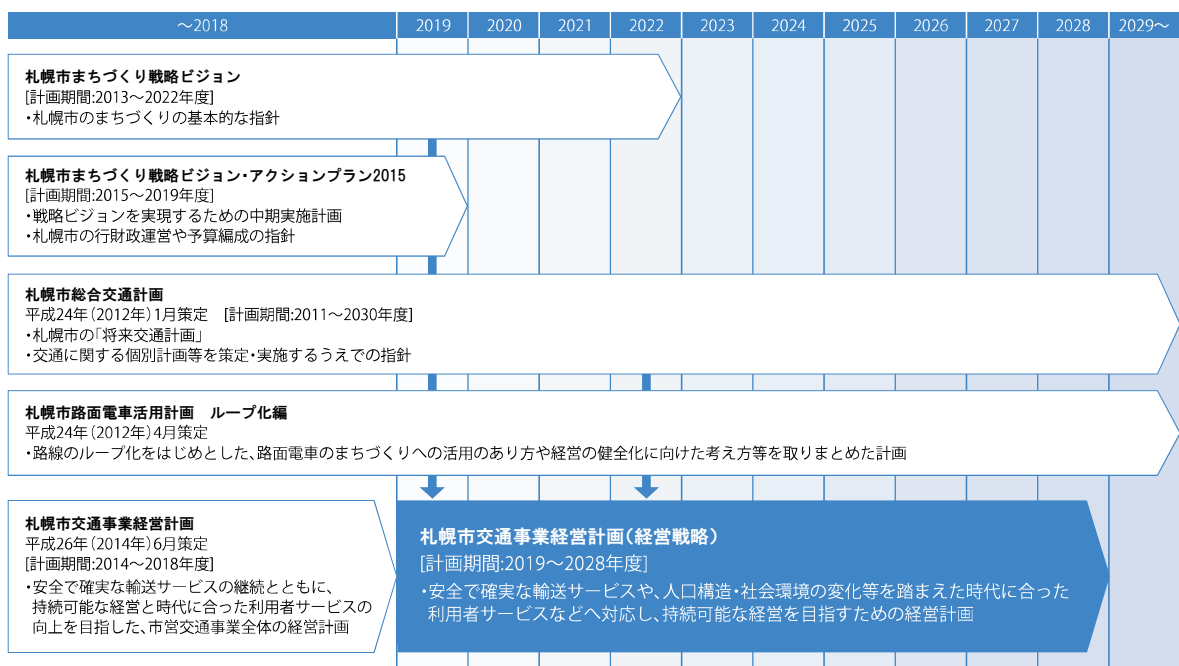
「札幌市交通事業経営計画[令和元～10年度(2019～2028年度)]」は、こうした趣旨に基づき、今後10年間の地下鉄・路面電車事業を計画的に運営していくことを目的として策定するものです。

### (2) 位置付け

新たな「札幌市交通事業経営計画[令和元～10年度(2019～2028年度)]」は、これまでの「札幌市交通事業経営計画(2014～2018年度)」の後継計画として位置付けられるとともに、札幌市のまちづくりの基本的な指針である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や、札幌市の交通に関する個別計画等を策定・実施する上での指針である「札幌市総合交通計画」の趣旨を踏まえた計画です。

路面電車事業においては、「札幌市路面電車活用計画 ループ化編(以下「路面電車活用計画」という。)」における路面電車活用の基本的方向性等に沿った事業計画となります。

また、総務省より、公営企業の経営環境の変化に適切に対応するため、的確な現状の把握を行った上で中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定するよう要請されているところであり、「札幌市交通事業経営計画[令和元～10年度(2019～2028年度)]」はその趣旨に沿った計画となります。



## 2

## 前計画における取組状況

これまでの「札幌市交通事業経営計画(2014～2018年度)」では、地下鉄・路面電車において安全の確保や快適なお客さまサービスの提供など様々な取組を進めるとともに、効率的で持続可能な事業運営を目指して財政指標を定め、進捗管理を行ってきました。また、各種取組がお客さまのニーズに応えるものであったかを測る指標として、目指す乗車人員の目標値を掲げた計画としました。

この計画に基づいて事業運営を行ってきた結果、4つの経営方針に沿って、以下の取組をそれぞれ実現又は進捗させました。

**1. 安全の確保**

テロ対応訓練の実施、南北線高架駅耐震改修、東豊線可動式ホーム柵整備

**2. 快適なお客さまサービスの提供**

全改札機のICカード対応化、路面電車情報活用システム導入、駅トイレ改修

**3. まちづくりへの貢献**

路面電車のループ化、さっぽろ駅連絡通路柵の撤去、エレベーター増設

**4. 経営力の強化**

一般会計補助の縮減、将来を担う人材の採用・育成

また、財政指標についても、地方公営企業会計制度の変更の影響を受けたものを除き、達成の見通しとなっています。(次ページ表のとおり。2014～2017年度は決算、2018年度は現行予算により算定)

目標とした一日平均乗車人員についても、地下鉄(目標60万人)は2015年度に目標を達成し、その後も増加傾向にあり、路面電車(目標2.5万人)も2016・2017年度の2年連続で2.4万人を超えるご利用をいただき、目標に迫る状況となっています。前計画における様々な取組によってお客さまのニーズに応えることで、ご利用人数の増加につながったものと考えています。

このことから、新たな「札幌市交通事業経営計画[令和元～10年度(2019～2028年度)]」においても、引き続き、安全の確保をはじめとする4つの経営方針を掲げます。社会環境の変化に対応しつつ、この方針に沿った取組を進め、安全で快適なお客さまサービスの提供と、持続可能な事業運営を目指します。

## 【地下鉄事業の財政指標】

項目	内容	結果	金額
経常収支	年平均50億円以上の黒字を維持	○	年平均83.9億円
累積欠損金	2,000億円以下まで縮減	×	2,190億円
資金不足	発生させない	○	資金残高8.2億円
企業債残高	2,800億円以下まで縮減	○	2,626億円

## 【路面電車事業の財政指標】

項目	内容	結果	金額
経常収支	赤字額を年平均55百万円以下に抑制	○	年平均43百万円
累積欠損金	800百万円以内に抑制	○	468百万円
資金不足	2.4億円以上の資金残高を保有	○	3.2億円

詳細は、参考編(P.44～48)に記載しています。



## 地下鉄事業



東豊線可動式ホーム柵



テロ対応訓練

## 路面電車事業



情報活用システムのモニター(停留場)



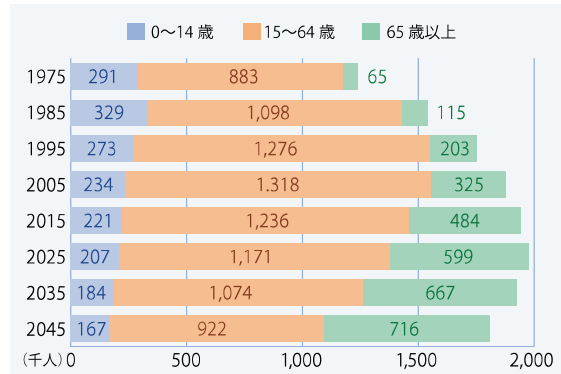
ループ化に伴い新設した狸小路停留場

### 3 札幌市の交通事業を取り巻く状況

#### (1) 人口構造の変化

- 札幌市の人口は、現在まで増加傾向にありますが、近い将来には減少に転じると見込まれます。
- 今後は、年少人口(0～14歳)・生産年齢人口(15～64歳)の減少、老年人口(65歳～)の増加傾向が続き、少子高齢化が更に進行すると見込まれます。

【過去の札幌市の人口構造と将来推計】

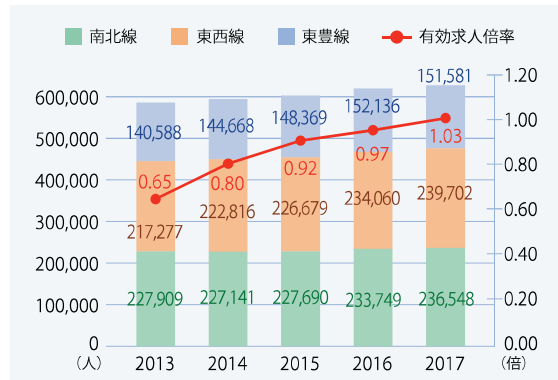


(2015年までは「国勢調査」、2025年以降は「日本の地域別将来推計人口」(2018年推計)/国立社会保障・人口問題研究所)

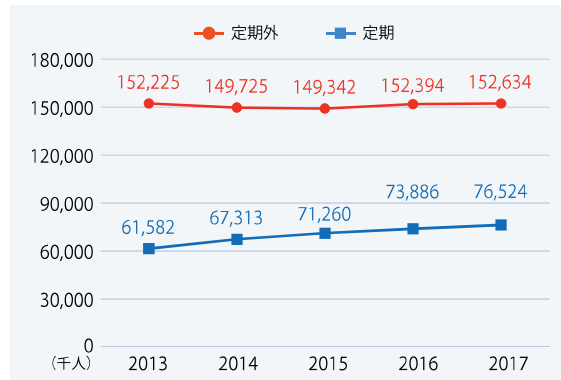
#### (2) 社会環境の変化

- 地下鉄の乗車人員は2012年度以降、全線において年々増加傾向となっています。特に定期券利用者の増加が大きく、これは近年、札幌圏の有効求人倍率\*が好調に推移しており、就労環境の改善に伴って通勤で地下鉄を利用する人が増えたことや、沿線人口の増加によるものと考えられます。また、30歳未満の自動車運転免許保有人数や保有率の減少も乗車人員増加のひとつの要因と考えられます。

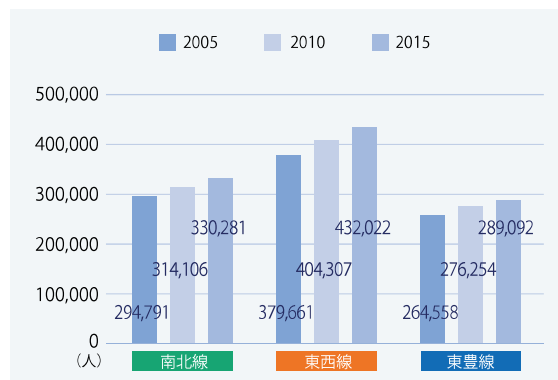
【地下鉄の1日当たりの乗車人員(線別)と札幌圏の有効求人倍率】



【地下鉄の券種別の乗車人員(年間)】

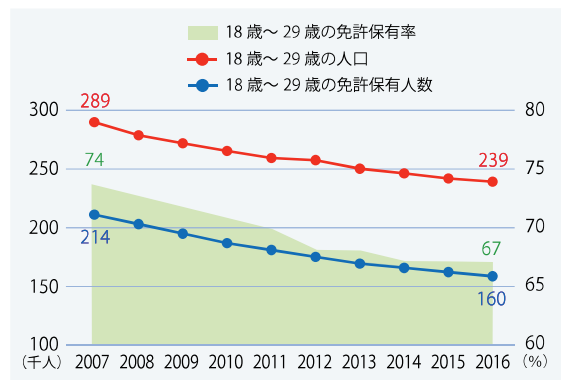


【駅圏人口\*の推移(線別)】



(政府統計の総合窓口(e-Stat)/総務省統計局)

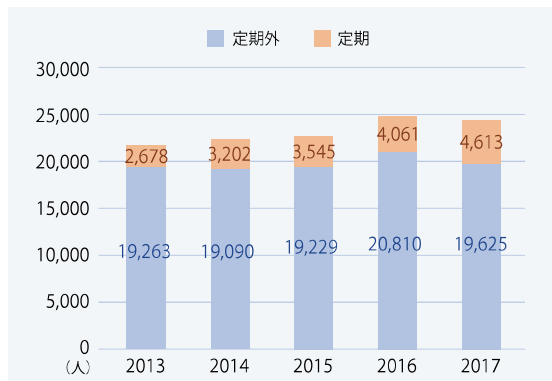
【札幌市の18歳～29歳の自動車運転免許保有率等】



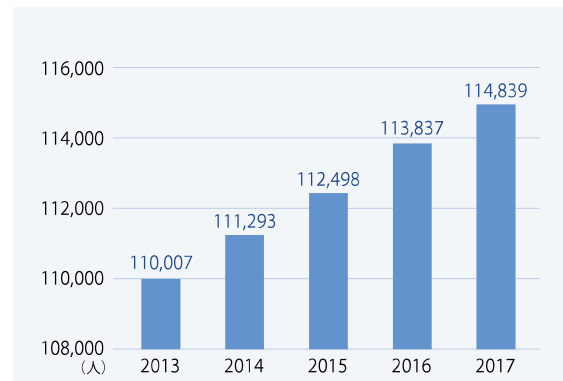
(札幌市統計書)

- 路面電車の乗車人員も、利用者に占める割合が高いと考えられる中央区の人口増加等を背景に、2012年度以降は増加傾向にあります。2015年12月に路線のループ化(環状化)を行ったこともあり、2015年度から2016年度にかけては、1日当たりの乗車人員が2,097人増加しました。

【路面電車の1日当たりの乗車人員(券種別)】



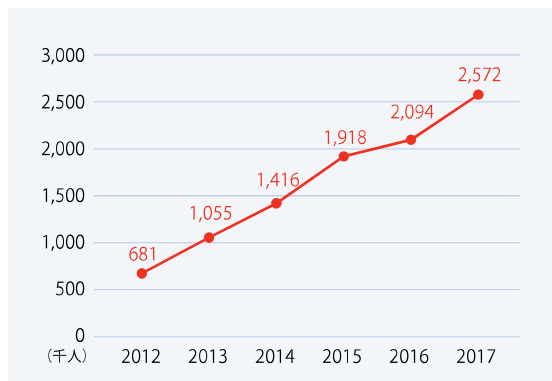
【路面電車沿線地域人口の推移】



(住民基本台帳・まちづくりセンター別)

- 近年の訪日外国人旅行客の増加により、2017年度には、過去最多となる250万人以上の外国人旅行客が札幌市内に宿泊しました。今後も札幌市を訪れる外国人旅行客の増加は続く予想され、市営交通を利用して市内の主要観光施設を利用する外国人旅行客も増加するものと見込まれます。

【市内に宿泊した外国人旅行客数の推移】



(札幌の観光/札幌市経済観光局)

【市内の主要観光施設と最寄駅(停留場)】

施設名	最寄駅(停留場)
円山動物園	円山公園駅
藻岩山展望台	ロープウェイ入口停留場
モエレ沼公園	栄町駅
サッポロさとらんど	栄町駅
白い恋人パーク	宮の沢駅
北海道庁旧本庁舎	さっぽろ駅
滝野すずらん丘陵公園	真駒内駅
札幌芸術の森	真駒内駅
羊ヶ丘展望台	福住駅
大倉山ジャンプ競技場	円山公園駅

- 環境やエネルギー問題については、二酸化炭素排出量の抑制や再生可能エネルギーへの移行など、環境負荷低減に向けた取組が引き続き求められています。

### (3) 輸送の安全に対する社会的意識の高まり

- 輸送の安全に関する基準等が随時改正され、より高水準、広範囲にわたっての安全対策が求められています。
- 地震や集中豪雨等の災害対策や、国際イベントの開催に備えたテロ対策等も想定に含め、安全や安心を確保する必要性が高まっています。